

## 第3学年 国語科学習指導案

日 時 令和3年9月3日(金)  
子ども 3年

### I 単元名

場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう  
中心学習材「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書3下)  
補助学習材「平和がテーマの児童文学作品」

### <授業の見どころ>

子どもたちが、場面と場面を比べながら、人物の様子や出来事を捉え、自分の考えをもてるようにします。

### II 単元の指導構想

#### 1 単元について

- 子どもたちは、自分が気に入った場面について友達と語り合ったり、物語のお気に入りの登場人物が活躍する続き話を考えたりするなど、進んで読書活動に取り組む姿が見られる。一方で、自分が好きな分類の本だけ読んだり登場人物の行動ばかりに目が向いてしまったりする子どももいる。日常の読書生活の中で戦争を扱った物語を読む子どもはほとんどいない。

「まいごのかぎ」の学習では、複数の場面の叙述を結び付けながら、登場人物の気持ちの変化やそのきっかけを捉え、場面の移り変わりや結び付けながら登場人物の気持ちの変化について具体的に想像することができるようになってきた。今後は、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像したことを基に、自分の体験や既習と結び付けながら自分の考えを形成していく力を身に付けていく必要がある。

- 本単元は、複数の場面や叙述を結び付けながら、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について想像を広げて読み、読んで理解したことに基づいて、自分の体験やこれまでの学習内容と結び付けながら感想をもつことをねらっている。

中心学習材「ちいちゃんのかげおくり」は、ちいちゃんという小さな女の子が主人公の平和児童文学作品である。ちいちゃんの気持ちについて直接的に表している表現は少ないが、物語の中でちいちゃんに視点の切り替わる部分においては、ちいちゃんの様子や気持ちを想像することができる。また、家族の帰りを待ち続けるちいちゃんの気持ちが表れている叙述を丁寧に読んでいくことで、ちいちゃんが家族に会いたいと強く願っていたことを捉えることができる。さらに、物語の中で対照的に描かれている2つの「かげおくり」は、最後の瞬間まで家族に会えることを信じ、誰にも知られず静かに命を落とすちいちゃんの姿を鮮明に伝えるものとなっている。ちいちゃんのまわりの様子を表す叙述から家族の帰りを信じて待つちいちゃんの気持ちの変化を具体的に想像していくことで、これまでの学習内容や自分自身の体験と結び付けながら、自分の考えをもつことに繋がっていくと考えられる。

設定した言語活動は、物語を読んだ感想を感想文に書くことである。感想文には、「ちいちゃんのかげおくり」を読んだ感想とその理由の二つを取り入れて書くようにする。自分の感想にそう思った理由を付け加えることで、自分が文章をどのようにとらえ、理解したのかを表すことができると考える。また、友達との感じ方の違いを理解したりよさを認めたりすることに繋がっていくと考える。

具体的には、第2次の各時間において、ちいちゃんのまわりの様子や気持ちの変化について感想を書き溜めていく。そして、第3次では、第2次で書き溜めた感想をもとに、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを理由と共に感想文として文章に書く活動を位置付ける。このような言語活動を行い、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつ力を身に付けていきたい。

- 指導に当たっては、次の二点に留意する。

一点目は、**問題意識が質的に高まる単元構想【手立て】**についてである。子どもたちは、中心学習材と出合ったとき、「複数の場面の叙述を結び付けて、登場人物の気持ちの変化を読むと詳しく読むことができそうだ」という意識をもっていると考えられる。この意識を生かしながら学習を進め、2つの「かげおくり」の様子の大きな違いに着目し、「2つのかげおくりの間にちいちゃんの何が変わったのか確かめながら読む」という問題意識をもたせるようにする。場面の様子やちいちゃんの気持ちの変化について想像する学習を進め、変わったものは何かについて振り返る場面を位置付けていく。このことにより、「場面の様子が変わっても、登場人物の気持ちが変わらない時もある。他の文章ではどうなるか読んでみたい。」というように問題意識の質を高めていきたい。**【全校研究とのかかわり「えらぶ」「つなぐ」「つかう」】**

二点目は、**言葉への自覚を促す学習活動【手立て】**を展開することについてである。具体的には、空襲により変わってしまった町や家の様子を表す叙述と家族とはぐれてしまった後のちいちゃんの行動や会話を表す叙述から、壊れた防空壕の中で一人ぼっちで過ごすちいちゃんの様子をとらえていく。そして、一人ぼっちでかげおくりをしたちいちゃんの会話文と壊れた防空壕の中にいるちいちゃんの行動や会話文を結び付けて、ちいちゃんの気持ちを考える場面を位置付ける。そうすることにより、ちいちゃんが家族の帰りを信じ続けていた気持ちをとらえることができるようにする。その後、一人ぼっちでかげおくりをしているちいちゃんの様子を考えていくことで、家族の帰りを待ち続けたちいちゃんが誰にも気づかれず静かに息を引き取ったこと、ちいちゃんのように、誰にも気づかれず亡くなっていった子どもたちがたくさんいたことをとらえることができるようにしていく。**【全校研究とのかかわり「えらぶ」「つなぐ」】**

## 2 学びの文脈に基づいた単元構想図

### 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。  
〔知識及び技能〕(1)オ
- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- ◎ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕思C(1)オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っていると、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景において、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①積極的に、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って感想文を書こうとしている。

#### 復興教育との関連

- **いきる「①かけがえのないいのち」**  
戦争の悲惨さと命を落とす登場人物の姿から命の大切さについて感じることができるようにする。
- **かかわる「⑧家族とのきずな」**  
家族で「かげおくり」を行う場面を考えるを通して、家族の絆に気付くことができるようにする。

#### 他教科・領域等

- 総合** 3年2・3学期  
「学区の歴史や文化（さんさ踊りなど）とそれを大切にしようとする人々〔歴史・文化〕」  
・意図に応じて、情報を収集したり必要な情報を選んだりし、考えを形成する。
- 社会** 3年 2月  
「かわる道具とくらし」  
・戦争時における道具やその使い方を知る。

資質能力の高まり

3年4月  
「きつつきの商売」  
場面の様子や、人物の気持ちを想像しながら読む。

3年6月  
「まいごのかぎ」  
人物の変化に気をつけて読む。

2年11月  
「わたしはおねさん」  
人物と自分を比べながら読み、感想をもつ。

**本単元** 3年9月  
場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう  
中心学習材：「ちいちゃんのかげおくり」  
言語活動：物語を読んで、感想をまとめる。(感想文)  
補助学習材：「戦争が描かれた作品」

3年12月  
「三年とうげ」  
物語の組み立てをとらえる。

3年3月  
「モチモチの木」  
叙述をもとに、人物の性格をとらえる。

教科の学習内容

#### 他教科・領域等

**学年の取組** 3年「生活を見直す」  
・これまでの生活を見直し、より仲を深めていくには、どうすればよいか考える。

**関連** 8月  
戦争にかかわる本やテレビ番組・終戦記念日の催し

#### 見方・考え方を働かせるポイント

- **戦時中であつたものを表す叙述**  
「いくさ」「ぼうくうごう」「空しゅうけいほうのサイレン」などの叙述からちいちゃんまわりの状況を捉えることができるようにする。

#### 願い

- ・物語を詳しく読めるようになりたい。
- ・最初に感じた疑問を解決しながら読みたい。

#### 教科の力

- 複数の場面の叙述から、登場人物の気持ちの変化を読み取ろうとする子どもが多い。
- 根拠となる叙述を挙げて感想をもつことが難しい子どもがいる。
- 読んで理解したことに基づいた感想を友達や教師に伝えようとする子どもが少ない。

### 子どもの実態

3 単元の指導及び評価の計画 (全11時間)

次	時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て (重点的に働かせる資質・能力)	◇評価規準, <評価方法>
1	1	○ 「戦争作品」に描かれる題材の豊かさや図書館に置いてある冊数の量を知り、戦争作品が描かれる背景を考える。 ○ 教師作成の感想文モデルを分析し、「ちいちゃんのかげおくり」を読んだ感想を感想文に書くことを確かめる。  「ちいちゃんのかげおくり」を読み、感想文を書こう。	【手立て 問題意識の質の高まり】 ◆これまでの物語の学習について振り返り、単元の学習課題解決に向けて生かせる読み方を決める。 【つなぐ】【えらぶ】【つかう】  登場人物の気持ちの変化を考えて読むと詳しく分かったよ。	
	2	○ 範読を聞き、物語の初発の感想を書く。 ○ 単元全体の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	【手立て 問題意識の質の高まり】 ◆ 2つの「かげおくり」の間に大きな変化があったことをとらえ、何が変わっていったのかを考えていくことを確かめる。 【つなぐ】【えらぶ】 (創造的・論理的思考)  ちいちゃんがどのように変化していったのか考えて読んでいこう。	
2	3	○ 物語の設定(時・場所・登場人物)を確かめる。 ○ 2つの「かげおくり」の様子を比べる。 <b>物語の設定(時・場所・登場人物) 登場人物の行動</b>  ちいちゃんはどのように変化していったのだろう。	【手立て 言葉への自覚を高める】 ◆ 2～4の場面の学習において、家族の帰りを信じて待つちいちゃんの気持ちとちいちゃんの状況を結び付けて想像させ、最期の瞬間まで家族の帰りを信じていたことをとらえることができるようにする。 【つなぐ・えらぶ・つかう】 (感性・情緒) (他者とのコミュニケーション)  ちいちゃんの気持ちは変わらなかった。ちいちゃんの様子と気持ちの変化を詳しく読んでみたら、考えたことがたくさんあったよ。	【知識・技能①】 発言・記述 ・登場人物の様子や行動、気持ちを表す語句を話や文章の中で使っているか確認する。
	4	○ 空襲から逃げるちいちゃんの様子や気持ちを考える。 <b>場面の様子(空襲の様子・場所) 登場人物の行動・会話</b>		【思考・判断・表現①】 発言・記述 ・ちいちゃんの変化や性格、情景において、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているか確認する。
	5	○ 防空壕で待つちいちゃんの様子や気持ちを考える。 <b>場面の様子(町や家、防空壕の様子・時) 登場人物の行動・会話</b>		
	6本時	○ 一人でかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを考える。 <b>場面の様子(かげおくり・防空壕の様子) 登場人物の行動・会話</b>		
7	○ 第5場面の役割を考える。 <b>場面の様子(時) 登場人物の行動</b>			
3	8	○ 書き方を確かめ、感想文を書く。	【手立て1問題意識の質の高まり】 ◆「ちいちゃんのかげおくり」の感想文を読み合い、感想の根拠となる叙述に改めて着目し、自分の考えを整理することができるようにする。 【つなぐ・えらぶ・つかう】 (感性・情緒) (他者とのコミュニケーション)  同じ出来事や言葉に注目しても感想が違っていった。他の作品でも、登場人物の気持ちの変化や様子を詳しく読んで、感想を伝えてみたい。	【思考・判断・表現②】 感想文の記述 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているか確認する。
	9	○ 似ているところや違うところを探しながら感想を読み合い、考えたことを発表する。		【主体的に学習に取り組む態度①】 感想文 ・課題に沿って何度も読み返しながら、物語を読み、感じたことを感想文にまとめようとしているか確認する。
	10	○ 他の戦争作品を読み、友達と感想を交流する。		
	11	○ 単元の学習を振り返る。		

### Ⅲ 本時の指導

#### 1 目標

登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

#### 2 評価規準

##### 【思考・判断・表現】

一人ぼっちでかげおくりをしたちいちゃんの行動や会話を表す叙述に着目し、壊れた防空壕の中で過ごすちいちゃんの様子と結び付けて、ちいちゃんの気持ちの変化について具体的に想像している。

##### 【期待する児童の姿】

ちいちゃんは、はず向かいのおばさんと別れたときから、きつと帰ってくると信じ続けていたと思います。だから、小さい子どもには、危険なこわれたぼうくうごうの中でも、じつと動かず家族を待っていたんだと思います。そして、その思いが強すぎて、自分の命がなくなってしまうその瞬間に、家族との大切な思い出の「かげおくり」の声が聞こえてきてしまったのだと思います。

#### <努力を要する状況の児童への手立て>

壊れた防空壕の様子を表す叙述やちいちゃんの会話文を教師と共に振り返り、ちいちゃんの気持ちを想像することができるようにする。

### 3 展開 (6 / 11時)

段階	学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	1 前時想起 ・ちいちゃんの何が変わったかを確認する。	5	<b>手立て1</b> 【問題意識の質の高まり】 ◆前時までの学習を振り返り、ちいちゃんの状況がどんどん悪くなってきていることを確かめる。	・壊れた防空壕の中で一人ぼっちで過ごしていること、体力もつきそうになっていることを確かめる。
	2 課題の設定  ひとりぼっちでかげおくりをしたちいちゃんはどんな気持ちだったのだろう。			
展開	3 課題の解決の見通し ○課題を解決するために、どのようなところに気をつけて読めばよいですか。どんな学習活動ができそうですか。	2	ちいちゃんは、どんなことを考えていたのかな。	・自分の考えをもつために着目する言葉や必要な学習活動を考え、学習の見通しをもつことができるようにする。
	4 学習課題を解決する (1) 一人学び ○ひとりぼっちでかげおくりをしたちいちゃんはどんな気持ちになったのでしょうか。 (2) 読み深め合い ○ちいちゃんは、家族の帰りを待ち続ける間どんなことを考えていたのでしょうか。 ○家族を待ちつけたちいちゃんはどのようにかげおくりをしたのでしょうか。 ○どうして「ちいちゃん」ではなく、「小さな女の子」と書かれているのでしょうか。	10 15	<b>手立て</b> 【言葉への自覚を高める】 (他者とのコミュニケーションの側面) ◆過酷な状況の中、ひとりぼっちのちいちゃんが考えていたことを想像する場面を位置付け、家族が帰ってくることをずっと願っていたことをとらえることができるようにする。 ◆ちいちゃんの状況を踏まえて、ひとりぼっちのかげおくりをしている様子を想像し、誰にも気づかれずに命を落としたちいちゃんの様子をとらえることができるようにする。 【つなぐ・えらぶ・つかう】 (感性・情緒の思考) (他者とのコミュニケーション) (考えを形成し深める思考)	・ちいちゃんの最後の会話文から、ちいちゃんが家族を待ち続けたことととらえることができるようにする。 ・これまで学んだちいちゃんのまわりの状況や気持ちを確かめながら、一人ぼっちでかげおくりをしているちいちゃんの様子を想像することができるようにする。
	5 まとめ ・一人ぼっちでかげおくりをしたちいちゃんの気持ちについて書く。	10	自分の命が終わるその瞬間まで、たった一人で家族の帰りを信じていたんだね。	【思考・判断・表現①】 <発言・記述> ちいちゃんの気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像していることの確認。
終末	6 次時の学習の見通し ・第5場面には、ちいちゃんが出てこないことを確かめる。	3		・第5場面にちいちゃんが出てこないことから、第5場面に書かれていることを確かめたという思いをもつことができるようにする。

